
教育総合センター

だより

NO. 89

平成15.9.1

二つの世界を見る目を

- 子どもの内部を見つめる努力を -

尼崎市立開明小学校
校長 長谷川 晴美



私たちは生物のもつ様々な能力や行動を通して政治や経済のあり方、人間の物の見方・生き方などを教えられます。

ある本にミズスマシの能力についての記述が出ていました。

「ミズスマシには空気中と水中の両方に天敵がいる。すなわち、空気中からは鳥などに襲われ、水中では魚に襲われる。そこで、その両方とも正しくとらえて(生きられる距離)を見定めて逃げ出さなければならない。そこでそれらを正しい映像でとらえる必要がある。ミズスマシは空気中で見えるための上側の二つの目と、水中を見る下側の二つの目と全部で四つの目をもっている。

この例のように、二つの異なる世界を見る目をもつことがあらゆる場合に求められる。国内と国外、新しい時代と古い時代、新しい価値観と古い価値観・・・のように。

そうした二つの異なる目もち、脳内でキチンと調和させる能力をもったとき

に、自ら導かれている状況に正しく対応できる。」

このことは教育の場でも大いに活用しなければならないことだと思います。

子どもを見つめるとき、ともすると子どもの外側に現れる行動ばかり目が行きがちですが、このことはそれほどむずかしいことではありません。しかし、子どもの内部に潜むもの、すなわち、子どもが何を思い、何を悩み、何に心を動かしているのか等、子どもの心を把握することがより大切だと思います。しかし、このことがとてもむずかしいのです。ご承知のように、人間は悲しいときにのみ涙を流しているわけではありません。陽気にはしゃいでいながら、本当は悲しみをこらえていることもあるのです。その意味から、学校の中と学校の外、教室の中と教室の外での子どもの姿など「二つの世界を見る目」で児童を観察する目を養い、子どもの実態を正しくとらえ、日々の教育にあたることが大切だと思います。

初任者のための研修講座 演習「授業のデザインのしかた」

はじめに

学校の中心は授業である。従来、「教師は授業で勝負する」と言われてきた。5月に初任者のための研修講座として、「授業のデザインのしかた」を演習した。

1 教師は授業で勝負する

おもしろくない授業に、子どもはのってこない。これは、子どもが悪いのではなく、おもしろい授業をデザインしていない教師自身の責任である。授業のデザインには、次の3つの過程がある。

(1) 授業のデザインの3つの過程

計画・・・「主題」、「目標」づくり
実施・・・教師は刻々と変化する子どもの発言と動きに即興的に対応し計画を修正しながら進行する
評価・・・授業の前、中、後に入れる

(2) 授業の3つの対話

教材との対話・・・対話によって、例えば分数という世界にふれる
他者との対話・・・対話によって、一人では認識できない世界を経験する
自己との対話・・・学習者自身が絶えず自己との対話が続く

(3) 1時間の授業展開の3段階

導入・・・学習課題をつかむ
(説明、質問、指示等)
展開・・・考える 話し合う 考える
(質問、助言、励まし、発問等)
終末・・・本時のまとめ
(質問、説明、賞賛等)

2 授業ワークショップ

デザインに有効な2手法を紹介した。

(1) アイスブレイキング

緊張を解くためのアイスブレイキング手法として「デートゲーム」を行った。自己紹介をしながら、新任2ヶ月をふり返っての感想や授業の交流がなされた。

(2) KJ法

「よい授業とは」をテーマにKJ法で仲間分けをした。「子ども」の項目に集中し、「ドキドキワクワクする」「問題を解決する」「歓声上がる」「感動する場面がある」等のイメージが出された。

3 よい授業をする先生

(1) 発問を吟味する

よい授業をする先生は、説明 指示 問い 助言 励まし等を組み合わせる柔軟な授業を展開する。問いを質問と発問に分けて考えることができる。質問は同一の答えに、発問は多様な答えになる。特に、一問多答を意識し、できるだけ吟味して、1単位時間2～3の発問に凝縮させる。

(2) 思考する時間を保障する

授業中は、学習者である子ども達の「思考する時間」をできる限り設ける。間を恐れずに待つことができるか。授業は、子どもの心身の発達のために行われるもの。

おわりに

よい授業をつくるポイント

- (1) 本時の目標が明確になっているか
- (2) 本時の目標にアプローチするための適切な教材・発問が用意されているか
- (3) 思考する時間を保障しているか
- (4) 間を恐れず、待つことができるか
- (5) 板書は構造化されているか

初任者のまわりには、優れた先輩教師がたくさんいます。

指示や助言の上手な先生、説明や応答の上手な先生、教科書活用や資料活用の上手な先生、板書の上手な先生。

先輩から学び、子どもに学び、自ら学び考え、「子どものための授業」を展開してほしいと切に願っております。

研修担当 指導主事 谷口 陽三

「生きる力」を高める「自然学校」

尼崎市立園和小学校 教諭 谷澤三千起

昨年度本校で実施した自然学校では、子どもたちの実態と「生きる力」を培うという視点から、「自分のことは自分で考えて行動する。」ということが一番の目当てにし、そのことが試される場面をいくつか設定してみた。

まず、起床時刻を午前7時とだけ設定し、一斉に起床するのではなく各自の判断で起床させ、寝ている子がいても起こさないということにした。保護者から不安の声もあったが、緊張感があったのか全員時刻までに起床していた。そのために、就寝時刻を守ることが自然にできるようになっていった。

食事や入浴についても、時間帯を設定し、一斉に行うのではなく各自の判断でおこなうようにさせた。特に食事では、食堂での混雑による時間の無駄がなくなり、ゆったりと食事ができた。また、時間のかかる子や好き嫌いの多い子には、早く食事に来るように助言し、普段に十分できない指導ができた。

「5分前行動」を行わせたことで時間に対する意識が高まり、集合時間も早くなった。また、掲示板に予定を書いておくだけで、それを見て子どもたちが自発的に行動できるようにもなり、教師に次のことを聞きに来る子が少なくなった。このようなことから、時間の無駄が自然と減り、逆に時間の余裕が生まれ、当初予定していなかったプログラムを新たに設けて楽しむこともできた。

さらに、プログラムにも自分の判断が生かせるものとして、選択プログラムを設定した。木登りや写生やつりなど5つの中か

ら、午前と午後に自分のその時の体調や興味あることなどを考えて選択させた。自分が判断し選択したプログラムということで、子どもの満足度は非常に大きく好評であった。

このように、体験的なプログラムに力を入れるだけでなく、それらも含めた全ての活動を通して、自己判断を必要とする場面をいくつか設定することで、一人一人の行動は随分大きく変化し、結果的に、集団行動の育成にもつながっていったように思う。その成果として、自然学校終了後の学校生活の中でみられたことは、遅刻する児童が激減したことや朝会の時に自分たちで静かに早く整列できるようになったことなどである。さらに、6年生での修学旅行でも、培った力を十分に発揮し、様々な場面で自己判断しながら主体的に活動することができていた。

自然学校が実施されて早10数年がたつ。始まった当初の頃と比べると、学校によって若干の違いはあるが活動内容はだいたい決まってきたように思う。そうした中で、体験的な活動だけにとらわれたり、教師主導で全ての活動を進めるという自然学校から脱皮し、上記の稚拙な取り組みではあるが「生きる力」をより培うという視点から少し工夫し実践することが必要なのではないだろうか。

このように考えてみると、普通の学校生活の中で培っている「生きる力」を本当に実践し高めていくことのできる場として、自然学校を位置づけられるように思う。

教育情報コーナーへどうぞ

二学期は、学校行事に教育研究に大忙しの毎日ですね。何か情報をお探しの時、教育情報コーナーをぜひご活用下さい。

新着図書から話題の本を一部ご紹介します。

大きく変わった『評価』。学校で十分対応していくにはどうすれば…。お悩みの方へ。

- ・『小学校教師のための絶対評価実践マニュアル』 鈴木節也著
- ・『中学校教師のための絶対評価実践マニュアル』 鈴木節也著
- ・『評価基準と評価基準表を使った授業実践の方法』 安藤輝次著
- ・『今日から始める絶対評価の基礎・基本』 佐藤 真著

『食の授業』子どもたちに大人気。食に関する指導に関心をお持ちの方へ。

- ・『食の授業をデザインする』 谷川彰英著
- ・『食に関する指導参考資料』 文部科学省編

少子化時代の園児たちに、とまどうことも多いのでは。いつもと少し違った視点で。

- ・『おいつめられる男の子、どっちつかずの女の子』 皆元二三江他著
- ・『新しい時代の幼児教育』 小田 豊他著

少人数指導も、今何かと話題に。この本がお役に立つと思います。

- ・『子どもを伸ばす少人数指導の工夫と実践』 加藤幸次著
- ・『小学校 個に応じる少人数指導』 河合剛英他著
- ・『中学校 個に応じる少人数指導』 浅沼 茂他著

文部科学省から刊行された、指導資料もそろえています。パソコンの画面より本で。

- ・『個に応じた指導に関する指導資料 - 発展的な学習や補充的な学習の推進』
[小学校 - 算数編・理科編] [中学校 - 数学編・理科編]
- ・『みんなでつくる「総合的な学習の時間」がっこうのかたち』 阿部 進監修
- ・『小学校 総合的な学習の時間実践事例集』 国立教育政策研究所
- ・『中学校 総合的な学習の時間実践事例集』 国立教育政策研究所
- ・『学習障害 (L D) への教育的支援 - 全国モデル事業の実際』 文部科学省編

紹介の本は、教育情報コーナーにあります。閲覧及び貸し出しもできます。

また、図書・資料等のお問い合わせがありましたら、お気軽にお尋ねください。

(教育情報コーナー担当 幾田)

開館時間のご案内

平日 午前9時～午後9時

ただし、教育相談及び視聴覚ライブラリーは午後5時15分までとします。

なお、次の日は取り扱いたしません。

【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】

発行 尼崎市立教育総合センター
〒661-0024 尼崎市三反田町1丁目1番1号
Tel (06)6423-3400
発行者 伊藤 征人
題字 教育委員会教育委員長 岡本 元興